

32SQiP 研究会 特別講義 レポート

作成日：2016年10月17日

書記氏名：大島 修

日時	2016年10月14日(金) 10:00 ~ 12:00
会場	(一財)日本科学技術連盟・東高円寺ビル 地下1階講堂
テーマ	業務効率向上のための「論理的伝達力」
講師名・所属	濱口 哲也 氏 (東京大学大学院 工業系研究科機械工学専攻 特任教授)
司会者	小池 利和 氏 (ヤマハ株式会社)
アジェンダ	<ol style="list-style-type: none">1. 背景と目的2. 単語3. 文4. 文章5. 論旨6. より伝わりやすい文章を書くために
アブストラクト	<p>『業務効率向上のための「論理的伝達力」』と題して、日本語の特徴や日本の国語教育の問題点、英語との相違点などについて解説を頂いた上で、「いかに論理的に事象を伝えるか？」を御教示頂きました。</p> <p>日頃、何気なく使っている日本語ですが、表現や使い方を間違えると齟齬が生じ、伝えたい内容が落ちてしまったり、曲がって伝わってしまいます。それは、プログラム開発の分野においても同様です。</p> <p>そこで、「単語」、「文」、「文章」という切り口から注意点と使い方のテクニックを学び、身近な例題を用いて「論理的伝達力」の訓練をさせて頂きました。</p> <p>今後、各分科会において論文を執筆しますが、その際にも大いに参考になる講演でした。ありがとうございました。</p>

第5回の特別講演では、『業務効率向上のための「論理的伝達力」』と題して濱口さんから御講演を頂きました。濱口さんには2014年度のSQiPシンポジウムで失敗学について御講演を頂きましたが、今回は「論理的伝達力」について御講演頂き、「日本語における論理性の重要性」について御教示頂きました。非常に勢いのあるアップテンポな講演でしたが、身近な例題を多用し、かつ時折ジョークを交えながら、楽しい雰囲気の中での講演会となりました。ありがとうございました。

1. 背景と目的

- ・今、日本で何が起きているか、・どんな教育が必要か、・本セミナーの目的、・日本の国語教育の問題点
- ・論理は言葉で構成され、言葉は概念を表し、概念は行動となって現れる

◆Case1「部下から提出された報告書、何を言いたいのかさっぱり分からない」

- ・上司が論理的に説明できていない。部下は上司からの指摘を言葉の好みとしか思っていない。
- ・書類の往復ビンタ！

◆Case2「提出されたヒヤリハット報告書、誰が何をしたのか経緯すら分からない」

- ・前後の余分な説明が多く、時系列を追って説明できていない。
- ・登場人物2人までは上手く説明できるが、3名以上になると説明できない。
- ・状況説明が多く、失敗の説明がないケースが多い。失敗しない人間はいない。原因は機械ではなく、人間にある。
- ・発見の経緯(物理現象)には興味はない。原因に興味がある。
- ・決して、受動態で書かない。神様がスイッチを入れたのか？
- ・否定形は全て結果論。「～が出来ていなかった」は原因ではない。失敗学は何故それをしたか？である。

◆Case3「顧客の話がまったく分からない。何度質問しても要領を得ない」→聞き手にも論理性が必要！

- ・顧客のニーズを掴んでいないわけではない。聞き手の整理ができていなかっただけ。

◆Case4「お客様の要望をきちんと実現したはずなのに！出来上がってきたのは見当外れのシステムだった」

- ・失敗の発生源は顧客と合意した契約書、企画書、仕様書にバグだらけ。日本IBMは日本語の論理チェックをする専門のレビューワがいるため大赤字にならない。コンピュータのテクニックとは無関係。
- ・プログラムはifチェック。ここへの分岐は書いてあるが、これではない場合はどうするか？は書いていない。

◆今、日本で何が起きているか

- ・世界で最も文脈依存性が高い日本語文化。すべて明確に表さなくても、文脈から意図を汲み取ってくれる。
- ・思考までもあいまいになっていることに気付いていない。
- ・「暗黙の了解」に気付いていない。
- ・原稿は飛ばさずにきちんと書く。喋る時は飛ばしても良い。ソフトウェア開発も同様である。
- ・誤った言葉や文、造語・新語の氾濫。概念を共有できていないカタカナ言葉、バイト敬語(～でよろしかったでしょうか？、～のほう、大丈夫です、～になります)の氾濫、マスコミの影響大
- ・あまり意味も考えずに直感的な言葉を用いている
- ・対面コミュニケーションの減少。業務効率向上、IT技術の進化→メールでの伝達が爆発的に増加
- ・雰囲気を読めない、一方通行のメールで伝達するから

<Point>

人間は言葉を使って思考し、言葉を使って伝達する→言葉を思考と伝達の両方に大きく関与している。

◆本セミナーの目的

論理的思考に基づく論理的な論旨×論理的で明快な言葉や文章＝論理的伝達力

◆本セミナーで目指すのは

- ・正しく表現されている
- ・論旨が素直に繋がっている
- ・100人が読んで100人とも勘違いを起こさない文や文章であり、その正しい論理性である
→人間は言葉を使って思考し、言葉を使って伝達する。
→論理は言葉で構成され、言葉は概念を表し、概念は行動となって現れる

◆ヒューマンエラーは「人間だから」で発生する。

- ・やらなければならないことを「忘れた」で表現するのは間違い。「ヒューマンエラー」は覚えなければ良い、「誤認識」はマーキングする、「漏れた」は左から順番に締める、「不理解」は教育する。
→会社で使っている言葉はいい加減！

◆論理的とは

- ・論理的とは？→思考を進める道筋・脈絡が整っている様
理論→Theory、論理→Logic
- ・論理的の反意語は？→感情的、感覚的
- ・社内の会話、伝達、書類、意思疎通はすべて論理的である。感情的で仕事はできない。
- ・社内だけではなく、社会生活においても同じ。
- ・社内のすべての文書に論理性が必要
→ソフトウェア開発の8割は日本語で書かれている。だから日本語が重要。

◆日本の国語教育の問題点

- ・メロスが走った！→美しい友情ですね！
→道徳の時間にやってくれ！今は国語の時間だ！国語は何を学ぶべき時間なのか未だに分からない。
- ・著者の意図を述べなさい。
→出版社の締め切りに間に合わせよう！あなたが間違いではない。幾通りも回答があることを問題にしている。

<Point>

行間を読むことばかりを教えられた。

→ビジネス文書や理系の論文では最低の文章。はっきり書け！

- ・感想文に点数を付ける先生
→こう感じてはいけない！と言われたことになる。「感想小説文」、「感想表現文」という課題表現に変えるべき。
- ・起承転結
→ビジネス文書ではありえない構成を、全日本人が教わった。
A=B、B=C、…ところが本当はB=Cではない！実はB=Dである。ビジネスではあり得ない。
→起承転結は小説の中にある。感動を目的とした教育である。
- ・社会では「結起承結」があたりまえ！
→但し、優秀な欧米人は序説で転を使うことはある。自論を論ずる時に転はいらない。順接で結べ！

<Point>

つまり、日本の国語教育は「道徳教育、文学教育」であり、言葉の論理性をほとんど教えていない。日本国語（語学）の授業なのに。

- ・学校で習った国語、受験で勉強した国語は漢字と文法以外は今すぐ忘れるべき！
- ・これを意識しないで社会人になるから、論理性が崩壊したままになる。
→社会に出たら、学校とは全く異なる国語が要求されている！

2. 単語

- ・単なる単語の間違いではなくて、概念まで壊してしまうことがある。単語を正確に使おう！
- ・言葉の概念を正確に理解すれば、明日から行う仕事の内容が変わるかも！「信頼性とは、問題と課題の違い」
- ・単語を使った論理性の訓練方法。「予防とは」。重要な気づきになることがある。
- ・あまりうるさいことを言うとか「うざい」と思われるから、そこそこに！

◆言葉は概念を表し、概念は行動となって現れる。

- 単語を馬鹿にしない。単語にこだわる。
- ・公開文書やビジネス文書では、間違った単語を書かないで下さい！
→言葉は変化していくものである。年配も若者も言葉の使い方を分かり合って欲しい。
- ・論理性の訓練を始めるときに、単語から入っていくと入りやすい。
- ・単語を考察すると、重要な気づきにつながることもある。
- ・失笑→辞書を引くと、大爆笑という意味。知っているか知らないかゲームではない。

- ・対策とは→対抗策であり、～対策と言うときには「～」には「望ましくないこと」が入るべき。防災対策は言葉としてはおかしい。正しくは震災対策、防災策。
- ・他に防寒対策、節電対策、防犯対策、省エネ対策、復興対策、復旧対策、安全対策、被災者支援対策もおかしい。全て「対」は不要。対策に対する対抗になっているので逆の意味になる。
- ・全商品100円割引！→正しくは全商品100円値引き！割引は適切ではない。

<Point>

日常会話の中で単語に対する突っ込みゲームをする。但し、声に出すと嫌われるので、頭の中で考えるだけ。それが訓練になる。

- ・超～とは→めっちゃではない。「一線を越えてしまってもはや～ではない」という意味、「very」ではない。
- ・効率とは→(出力/入力)という割合のこと。高い・低いという概念は含まれていない。
業務の効率化→高効率化、高率化
～のほうが効率的である→効率が良い、効率的には良い
- ・難易度が高い→難度が高い。難易度という言葉は「難」だけを指すわけではない。
- ・～化→「駅冷房化工事実施中。ご協力をお願いします」→駅冷房工事実施中
成果の「見える化」→「可視化」という美しい日本語にある。動詞に「化」をつけるな！
使い方の判断方法は？(濱口さんの自論)
 - ・AのB化と言うときは、(多くの場合)AとBは質が同じ言葉
 - ・AがBに成る、と言い換えても成立すればOK
 - ・「化」を取って成立するものには「化」はいらない
 - ・方向を表す言葉に「化」はいらない
- ・～のほう→使い方としては、何かとの比較、漠然と方向性を指すとき。敬語ではない。
- ・よろしかったでしょうか？→何故、過去形で表現したがるのか？「御確認頂けますでしょうか？」
- ・～になります→何かに変身するのか？「～で御座います」あるファミレスチェーン店のマニュアルから。

◆単語を使った論理性の訓練方法

- ①違和感を感じたら、ピッタリ合う言葉を捜してみる。
- ②ピッタリ合う言葉を見つけたら、元の言葉との違いを説明してみる。
- ③その差を論理的に説明できれば考えが進み、さらに他人を説得できる。(伝達力向上)

<Point>

予防とは、異常の早期発見ではなくて、正常の持続努力である。確認は単なる発見行為であり、既に異常は発生している。

3. 文

- ・主語と述語の関係をはっきりさせろ！格助詞を間違えたら通じない。「が」は怪しい！
- ・修飾関係や否定関係をはっきりさせろ！「動詞+動詞足+ない」に要注意！
- ・文型を意識しろ！日本語だって第1～第5構文しかない！
- ・余計な表現を取り去って、シンプルにして考えてみよう

◆英語と日本語の相違点

- ・格助詞=俗に「てにをは」と呼ばれる
→「食べたい、ラーメンを、私は」でも日本語は通じる。英語に格助詞はないから順番を間違えると通じない。
→日本語は格助詞を間違えるな！
- ・「～が」は怪しい→極力「が」を使わない努力をする。使うな！とまでは言わない。
→ラーメンが食べたい、の主語は？→私はラーメンを食べたい。
→象は鼻が長い、の主語は？→象の鼻は長い。
→ねずみは体が小さい、の主語は？→ねずみの体は小さい。
→うには春先がおいしい、の主語は？→春先のうにはおいしい。
→メロンパンはメロンが入っていない、の主語は？→メロンパンにはメロンが入っていない。

<Point>

英語が優れている訳ではなく、論理的に使っているだけ。決して、日本語は劣っている訳ではない。

◆受信の試験をしている為、以下の使い方は誤っている。実際にTVで放映された表現。

今、正しく映っているテレビは問題ありません。

今、正しく移っているご家庭は問題ありません。

※時間切れの為、講義はここで終了！

4. 文章

- ・接続詞の効果は大きい。論理に大きく関わる
- ・あいまいな接続詞を極力排除し、論理的に接続しよう
- ・「接続詞さえ見れば、およその論旨が分かる」と言うほど、接続詞は重要！

5. 論旨

- ・論理矛盾に気がつくようになろう、・しっかりした論旨を組み立て、それが素直に読めるようにする
- ・暗黙の了解が見える形にしなから、まず箇条書きで論旨を組み立てて、その後文章にして修飾する

6. より伝わりやすい文章を書くために

- ・論理的伝達力を発揮するための「勝利の方程式」
- ・比較して主張を明確にすることで説得力を増す。「一方…」
- ・抽象化：事例から概念へと言い換えて主張を明確にする。「つまり…」事例は概念を説明するためにある。
- ・抽象化：概念を説明することで言葉をはっきり定義する。「…という…」
- ・具象化：事例を示して説得力を増す。「例えば…」
- ・論理性を磨く訓練方法のご提案。教科書を使う。送信済みメールボックスを使う。TVに突っ込みまくろう。

まとめ

◆TVに突っ込みゲーム。

- ・ニュースのフリートークを聞きながら、3行を1行にまとめてみる。要約するだけで訓練になる。

◆組織力向上のためのリーダーシップ・マネジメントセミナー

リーダーシップを論理的に語ります。10月26日(水)に初リリースします。